

30 新海竹蔵《冬薯蕷葛》

一対

昭和三年（一九二八） 木彫彩色

男性 一八・五×二三・二×五二・〇

女性 一八・二×二三・六×四八・〇

古代の甲冑をまとった武人と、やはり古代装束の女性に、雌雄の白い羊がそれぞれ身を寄せる姿を表した木彫作品。古色のように施された彩色、端正な造形に特徴がある。作品名の冬薯蕷葛（ところずら）とは、武人の足元から身体に沿って伸び、女性が手に持つ蔓性の植物のことで、トコロとも呼ばれるヤマイモの一種である。冬薯蕷葛は『万葉集』巻第七雑歌のなかで「とこしくに」にかかる言葉として詠み込まれており、御代が永く続くようにとの祝いの意味から主題に取り上げられている。昭和三年の大礼に際して山形市より献上された作品である。基台隅に「昭和三年秋 臣竹蔵謹作」の刻銘がある。

作者の新海竹蔵（一八九七〜一九六八）は、山形市の仏師の家に生まれ、大正元年に上京、彫刻家で伯父にあたる新海竹太郎に師事して彫刻を学んだ。大正四年第九回文展に初入選。同十三年からは日本美術院展覧会に出品、昭和二年には日本美術院の同人となり、堅実で清新な木彫作品を中心に発表、塑造や乾漆像にも取り組んだ。戦後は国画会にその活動の場を移した。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

1920s-30s モダン・エイジ — 光と影の造型美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 70

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年九月十二日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan